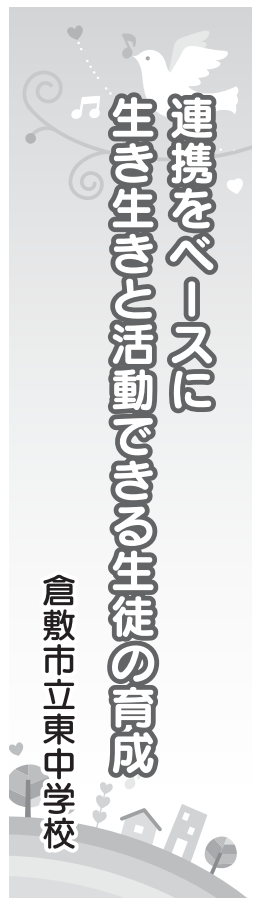




定期的に行われる執行委員会

### 1 はじめに

本校は、倉敷駅周辺や美観地区を学区内に持つ市内中心部に位置する学校です。生徒は落ち着いた学校生活を送っています。指示待ちの生徒や精神的に弱い生徒が多いので、生徒会活動の活性化、小中連携、地域連携を通して生き生きと活動でき



る生徒の育成を目指しました。

### 2 取組の概要

#### (1) 生徒会活動の活性化

組織に位置付けられながら存在すら知られていなかった評議員会の機能や生徒会執行部の役割を見直しました。そして、学級・学年の課題が評議員会を通して学校全体の課題として取り上げられたり、執行部からの提案を学級討議できる双方向のライン作りに心掛けました。この繋がりにより生徒会執行部と各学級との意見のキャッチボールができるようになり、規則の改正等が実現しました。

#### (2) 小中学校の連携の実践

形骸化していた小中学校の連携を中1ギャップ解消のためのき

っかけにしたいと考えました。そして、生徒と児童、中学校教員と児童、小中の教員間の繋がりを考え、お互いがプラスになり、無理なく継続できる取組から始めることにしました。

初めて中学校教員の授業を受けた児童は、楽しい学習内容を体験したことで、より中学校入学への期待感が湧いてきたとアンケートに答えていました。また、6年生に勉強を教えている中学生の姿に頼もしさを感じました。

#### (3) 地域との連携

本校では、グラウンド・ゴルフをきかっけに老人会の方々が毎月学校に来られるようになりました。校門でのあいさつ運動で生徒に「おはようございます」と温かい声を掛けてくださったり、花の植替え、草取り等の環境整備で学校を支えてくださったりしました。また、地域での生徒の様子を詳細に教えてくださったことも地域の教育力の大き



老人会の方と花の植替えを行う生徒

### 3 おわりに

生徒会評議員会に、寒さ対策としてひざ掛けの使用が提案されました。早速、執行部で使用方法が検討され、学級討議へと展開し、職員会議を経て、ひざ掛けの使用が実現しました。生徒会組織、小学校、地域との連携が軌道に乗り始めたことは、学校運営上大きな力になりました。ご協力いただきました皆様

に心より感謝申し上げます。  
(校長 仁科 康)

※このコーナーの所属は平成29年度のものです。